

日本語日本文学専攻博士前期課程の概要と特色

本専攻は、古代中世文学・近世近代文学および日本語学の3研究分野を区分し、それぞれの研究を進めるとともに、専門関連科目として立てた日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論をも含め、これらを有機的に関連させて、新しい研究の視角を切り開こうとするところにねらいがある。

本学は、黒川文庫・正宗文庫などの多くの貴重図書を蔵して、開学以来、とりわけ古典研究に多くの業績をあげてきており、さらに最近では辞書学・方言学など日本語学関係図書を中心とする佐藤茂文庫を得ることによって、日本語学研究にも新領域を開く土台が築かれた。

(1) アドミッション・ポリシー

古代中世文学分野、近世近代文学分野、日本語学分野に関わる専門的な知識を踏まえて研究能力を発揮し、自らのねらいに基づく個性的な研究課題に対して適切な方法論によって取り組むことで、新しい知見を得ようとする意欲的な学生を求める。

(2) カリキュラム・ポリシー

3研究分野のうち、古代中世文学分野では、上代より中世にいたる文学作品および作者を研究対象範囲として、物語・日記・和歌・歌論などをとりあげて、この時代の文学の展開の諸相を究明する。

近世近代文学分野では、近世より現代にいたる文学作品と作者を研究対象範囲として、小説および文学理論をとりあげて、多角的にこの時代の文学を追究する。

日本語学分野は、大きく分類すると、古代語と近代語の2領域を研究対象範囲とし、日本社会の言語行動および日本語表現について考察するとともに、通時・共時の多角度から、日本語の総合的な研究を目指す。

専門関連科目では、日本思想史・日本民俗学・中国思想史の各特論を開講し、思想も本来、言語・文学と密接不可分の関係にあることに配慮している。

これら3分野のいずれかの領域に研究の主体を置き、研究課題を策定して、その課題に関係のある科目を選択履修することで、研究課題に応じた着実な方法論による多角的・融合的な知識によるアプローチを可能にする。

(3) ディプロマ・ポリシー

基礎的研究能力を証明する十分な単位を修得し、学問的水準を満たした修士論文を作成し、作成した修士論文が審査に合格して、さらに最終試験に合格すれば、修士（文学）の学位が授与される。